



2019年度

米小学校だより



2020年3月11日(水)

第55号

発行者：米小学校長

小峰 光

大震災から、9年を迎え・・・。

2019.1.12 浪江町成人式より

「人生を変えるほどの出来事だった。先生の的確な判断があれば、自分たちはこうして成人を迎えられなかったかもしれない。」



浪江町立請戸小学校卒業の新成人 横山和佳奈さん

海から300mの距離にある浪江の請戸小学校。津波が押し寄せるまで40分しかなかった。83人の児童を1.5km先の高台まで送るため、請戸小学校の教師・児童、そして住民が一丸となった。早い子供や低学年の子供を全員で助け合いながら一人の犠牲者も出さず生き延びた、浪江請戸小学校の人々の物語。



あの3月11日から、本日で9年目を迎えました。雪が舞う寒い日でしたが、今日は朝から晴れ上がり温かい日になりました。

昨日もテレビ報道で9年たったの現地を中継で結んで伝えられていました。見ていた人はどんな感情を抱いたのでしょうか。依然として、様々な課題があり、各自自治体が苦慮しながら、復興を進めています。

依然として4万人を超える多くの皆さんが避難しています。

9年前、震災翌日の3月12日の早朝に配付された

「特別紙面」が右の新聞です。避難所では、テレビを見ることもできず、余震とラジオから流れてくる情報に聴き入っていたことを思い出します。



あれから、9年。この震災を分からない子が入学してきて、分かる子が少なくなっている現状もあります。そんな中、学校教育現場では、児童を安全に保護者へ引き渡すための訓練が行われたり、下校途中でこのような状況に遭遇した場合の対処法について学んだり、様々な対応がなされ、安心・安全な生活を営めるように変化をしてきました。

本日3.11を機会に、安全な生活を考えることは大切だと思います。

現在、新型コロナウイルスの感染症拡大を踏まえた休校措置が実施されており、本日、子どもたちに直接伝えることは叶いませんが、ご家庭で、話し合える機会にいただければ幸いです。

「震災の痛みを知り、自分の命を守るための方策を考える」

| | |
|--|---|
| <p>大震災での非構造部材の被害状況</p> <p>天井・照明</p> <p>ガラス</p> <p>外壁</p> <p>テレビ・樹立</p> | <p>隣の町の様子、町・学校では、</p> <p>(町内の様子)</p> <p>(中学校の様子)</p> |
| <p>「落ちてこない」「倒れてこない」場所に避難</p> <p>近くの教室の机の下に隠れる</p> <p>校庭では校舎から離れてしゃがむ</p> <p>丈夫な柱の近くに身を寄せる</p> <p>掃除中、机の下に隠れる</p> | <p>「落ちてこない」「倒れてこない」場所に避難</p> <p>前記補強のところに隠れる</p> <p>立上用木琴の下に隠れる</p> <p>音楽室の椅子の下に隠れる</p> <p>柱に身を寄せて音楽室をかぶる</p> |

校長より「あなたなら どうする?」と題してプレゼンをする予定でした。

プレゼンでは、9年前に発生した「東日本大震災」について話をし、そして、昨年度の知事メッセージに引用された成人：横山さんの出身校である請戸小学校物語を使って、津波の怖さ、命の大切さについての話をしようと考えていました。

また、ここに記した大震災での地元の被害状況をスクリーンで見せながら、「このような災害が発生した時、どんな行動を取ることが大切か。」について考えさせようとしていました。

左の写真のように学校の校舎内であれば、非構造部材の落下や転倒が想定されます。また、屋外であれば、校舎の柱が崩れ、道路は亀裂が入り、下水道のマンホールが突き出し、

校庭には地割れの発生が想定されます。

このような状況が発生した場合、9年前の震災の教訓で、子どもたちに意識して欲しいことは、「**上から、落ちてこない」「横から、倒れてこない**」場所を見つけていち早く避難することです。そうすることが、命を守ることに繋がります。この徹底を今日の日に再度意識付けて欲しいと思います。

3月11日は、特別な体験をした日でもあります。この機会に家族で災害時の対応について話してみたいと思います。